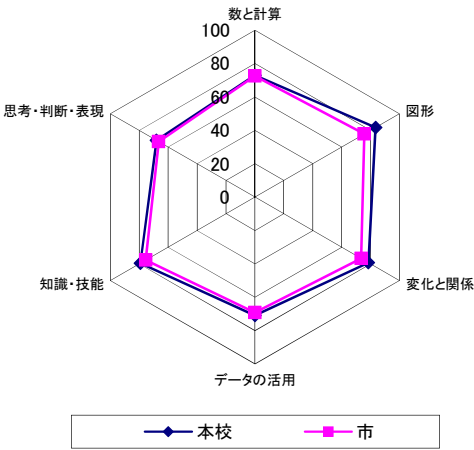


宇都宮市立東小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	73.0	72.6	73.1
	図形	83.5	75.7	74.7
	変化と関係	78.5	73.6	66.1
	データの活用	71.0	69.2	70.7
観点別	知識・技能	79.3	75.5	74.4
	思考・判断・表現	68.1	66.5	67.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
(算数では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市の平均を若干上回った。 ○数直線などの図を使って回答する分数の問題について市の平均を18.8ポイント上回っている。図の意味を理解し立式に役立てられていると考えられる。また、定期的に図を用いた問題を宿題にし、取り組んだことでの成果とも思われる。 ●小数や分数の計算に誤答が多く見られる。小数点の位置や約分の間違いが原因だと考えられる。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・基本的な計算の定着に向けた繰り返し練習を継続していくとともに、見直しの姿勢を身に付けていけるよう、見落としがちなポイントを明確にし、確認作業も活動に入れていく。
図形	平均正答率は、市の平均より7.8ポイント高い。 ○特に「直方体を組み合わせた形の体積を求める」では正答率が96.8%で、よく理解していた。様々な形の図形の体積を求める問題を数多く取り組んだ結果だと考えられる。 ●「三角柱の展開図を組み立てたときに重なる頂点を選ぶこと」では、市の平均より4.5ポイント低かった。頭の中で重なる点が想像できていないと考えられる。	・作図などの算数的活動を継続して取り入れるとともに、デジタル教科書の活用や模型などの具体物を用いて触れることを通して自分の考えを説明する力を育むと共に、図で表す活動や、図を読み取る活動を積極的に取り入れる。 ・学習したことを復習する機会をより多く作っていく。
変化と関係	平均正答率は、市の平均より4.9ポイント高い。 ○「分速を秒速や時速に直す」問題では市の平均を17.3ポイント上回った。授業や宿題で繰り返し取り組んだ成果だと考えられる。 ●「半分が何%か求める」では正答率が市の平均より3.5ポイント低い。割合を苦手としている児童が多く、割合の概念を理解していないと考えられる。	・基礎基本の確実な定着のために、グラフなどの視覚に訴えた活動を継続して行っていくとともに、児童の状況に応じて、習熟度別学習を生かして個に応じた指導を行っていく。
データの活用	平均正答率は、市の平均より1.6ポイント高い。 ○「代表値を用いて説明することができる」では、正答率が市の平均より15.4ポイント高い。授業の中で児童の言葉で説明する活動を多く取り入れた成果だと考えられる。 ●上記の問題において市の平均よりは高かったものの、45.2%と正答率は低い。自分の言葉で表現する問題が苦手な児童が多いことが考えられる。	・資料を読み取って自分の考えを書く活動を継続していくと共に、国語の活動での表現の仕方や書き方を取り入れられるように指導をしていく。また、グループやペア学習を用いて学び合いの中で理解できるようにしていく。